試験研究用

# 取扱説明書

## カセット電気泳動槽〈特許第1802133号〉
## MODEL DPE-1620（ミッド・二連式）

### 〔はじめに〕

本泳動槽は，電気泳動用プレキャストゲルマルチゲル® II ミッドの性能を十分に発揮させるために設計した専用電気泳動槽です。

この専用電気泳動槽は，従来の泳動槽に比べて2つの大きな特長を有しています。

1．ゲルプレートの固定にウェッジ方式を採用
　ウェッジ式（くさび式）ですので無理なく均一にゲルプレートを固定できます。

2．上下バッファー槽両面により冷却効率をアップ
　冷却効率が高いので従来より高電圧，高電流で泳動可能となり，短時間でスマイリングのない泳動像が得られます。

安全にご使用頂くため，ご使用の前に本書をよくお読み頂き，正しい取扱いをお願い致します。

### 〔取扱い上の注意〕

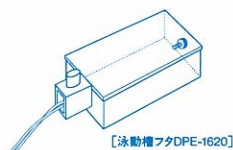
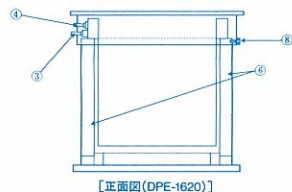
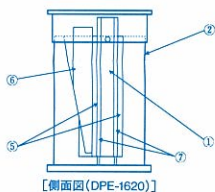
1．高電圧で使用しますので，取扱いには充分注意して下さい。感電防止のため，温度コントロールを行わない場合でも必ず泳動槽カバーを装着した状態で通電して下さい。

2．ゲルプレートはガラス製ですのでウェッジの装着・取り外しの際に無理な力をかけるとガラスの破損を生じ，事故の原因となる場合がありますので注意して下さい。ウェッジが装着しにくい場合は，インジェクションガスケットを再装着してセットし直して下さい。

### 〔組立構成図〕

[側面図(DPE-1620)]

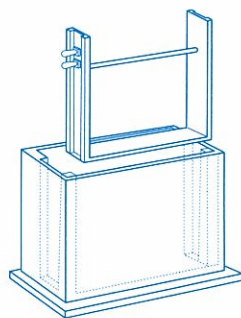
[正面図(DPE-1620)]

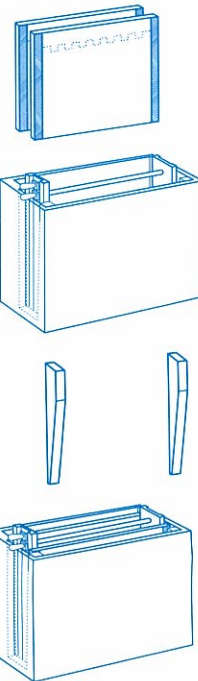
[泳動槽フタDPE-1620]

（ウェッジ差し込み側を手前にして本体を置き，陰極バッファー槽の電極が左になるように組み立ててください。）

①陰極バッファー槽　⑥ウェッジ
②陽極バッファー槽　⑦インジェクションガスケット
③プラス電極（赤）　⑧固定ネジ
④マイナス電極（黒）
⑤ゲルプレート

### 〔操作手順〕

**ゲルプレートの泳動槽へのセット**

1．陽極バッファー槽に陰極バッファー槽をセットします。ウェッジ差し込み側を手前にして本体を置き，陰極バッファー槽の電極が左になるようにセットして下さい。

2．泳動槽に泳動用バッファーを注ぎ入れます。

3．ガラスプレートの短い方をパッキンに面してゲルプレートを挿入します。ゲルプレートの数が規定数に満たない場合はゲルプレートの代わりにアクリル板を挿入します。
　ゲルプレートの下端に気泡が入った場合は，取り除いて下さい。（少量なら泳動に支障はありません。）

4．ウェッジをゲルプレートの両サイドに沿って挿入しゲルプレートを固定します。

5．陰極バッファー槽に泳動用バッファーを満たします。この時，陰極バッファー槽から液漏れ（液面の低下）がない事を確認して下さい。液漏れがあった場合は，再度ゲルプレートを装着し直して下さい。
　（注）　液面が，長いガラスプレートの上端より5mm程度低くなるように液量を調節して下さい。バッファーを入れすぎると漏電や余分な泳動時間がかかる原因となる場合があります。

**電気泳動**

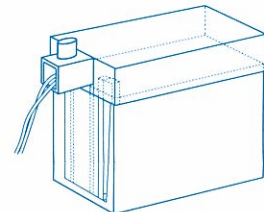
6．ゲルプレートのウエルに試料を注入します。
　（注）　試料の調製，泳動条件については，ゲルプレートの取扱説明書をご参照下さい。

7．電極装置のパワースイッチがOFFになっている事を確認します。

8．スライド式電極コンセントが陰極バッファー槽の電極端子側になるようにフタをし，固定ネジを締めます。

9．電源装置のパワースイッチがOFFになっている事，陰極・陽極の位置が正しい事を確認してから，電極コンセントを差し込みます。

10．パワースイッチをONにし，ゲルプレート1枚あたり30mA定電流で約2時間半泳動します。

11．17ウエルタイプゲルは，BPBラインがゲルプレートの下端から5mm程度まで移動したとき，泳動を終了します。2Dタイプゲル（二次元電気泳動）は，BPBラインがゲルプレートの下端から流れ出すまで泳動して下さい。

**ゲルプレートの取りはずし**

12．パワースイッチをOFFにします。（危険防止の為厳守して下さい。）

13．電極コンセントを取りはずし，固定ネジを緩めて，フタを取ります。

14．左右のウェッジを抜き取ります。（この時ウェッジ上部は上方向へ引っ張らず，ウェッジ上部を横方向にずらすと容易にはずれます。）

15．ゲルプレートを抜き取り，ゲルプレートからゲルを取り出して染色・脱色等の操作に移ります。

### 〔セット内容〕

| | DPE-1620 |
|---|---|
| 泳動槽本体 | 1セット |
| ウェッジ | 2個 |
| インジェクションガスケット | 2本 |
| カバー付電極コンセント | 1個 |
| アクリル板 | 1枚 |
| 取扱説明書 | 1部 |

2008年 1月作成

〒135-0016　東京都江東区東陽 2-2-20 東陽駅前ビル